

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 25 年度第 4 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 26 年 3 月 3 日(月) 18:00 から 19:50 まで
- II. 場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館） 7F 鳥海
- III. 参加者：疋田担当理事、岩井委員長、片岡委員、杉山委員、藤本委員、小川委員、森本アドバイザー
アドバイザー賛助会員：朝日ネット、ニッセイコム
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本、藤江（記）

IV. 検討事項

委員会として、学修ポートフォリオに求められる機能・役割を整理し、情報システムとしての学修ポートフォリオの構築・運用に伴う、留意点及び課題について、年次計画で研究する。平成 25 年度はポートフォリオに対する理解と普及の促進にむけて、ポートフォリオに関する基本的な考え方を、学生の視点を中心に提示する。

今回は、大学情報システム研究委員会 中間報告(案)が提示され、1.本委員会の課題、2.ポートフォリオをめぐる状況、3.ポートフォリオ基本的な考え方、4.ポートフォリオの活用事例、5.ポートフォリオに関する Q&A に関して意見を交換した。

1. ポートフォリオをめぐる状況及び、基本的な考え方について委員の意見

- ・事業計画の I R を記載したほうがいいのではないかと。専門的分野に留まるのではなく、全学的な体制の構築が必要と考えられる。
- ・教員・職員・非常勤の配置、施設設備など、人・モノ・お金・情報、それらすべての資源配分の適正化の(理事会等での)議論が必要だ。
- ・教育の全体を俯瞰しその重要な一部であることの説明が不可欠と思われる。各大学の理事長や学長の覚悟が一層求められる。
- ・ツールのためのツールであってはならないので、本質的にどういう効果があるのかをわかりやすく説明する必要がある。
- ・学生にも、それをやる価値をわからせるよう、「活用できる」という表現ではなく、具体的に、どのように卒業までにフォローアップしていくのかの記載が必要。
- ・性善説ではなく、実際にはうまくいっていない事例が多いように思えるので、それにも触れた方がよいのではないかと。
- ・基本的な考え方以前に、「ポートフォリオを理解するために」の項を作り、現状うまく機能していない事例をあげ、学生が書かないという状況や、教員がフィードバックしないことなどの現状を記載し、「基本的な考え」につなげた方が効果的だと思われる。私情協ならではの視点が必要だ。

2. ポートフォリオの活用事例について

ポートフォリオの主たる目的・形態などを多様なパターンで事例を示す。
金沢工業大学「KITポートフォリオシステム」と賛助会員アドバイザーからの事例をもとに議論した。

- ・「KITポートフォリオシステム」は職員が起案した。

- ・教員が重要性をしっかりと理解し組織的に4年実施して、はじめて効果が明確になる。
- ・ガバナンスの形態が違うが、学ぶべきことが多い 覚悟を持ってやっている。
- ・教員の熱意の必要性和 1年次から開始する重要性が理解できた
- ・1年次の入り口が非常に大事だ。採用する先生にはポートフォリオ活用前提で採用を行っている。相当な覚悟がないとできない。
- ・若い先生方に責任分担することも大事。
- ・教員がコメントをしない、SAにコメントを任せている事例が多い中、一人ひとりの学生に 寄り添う覚悟の必要性を感じた。
- ・学生のキャリア形成だけが教員評価の物差しではないので、教員としてなにを優先的にやるべきなのか、大学トップの判断が必要だと感じた。

3. よくある質問への Q&A について

e ポートフォリオの取り組み Q & A が提示され、議論を行った。

- ・学修と学生生活の 2 本立てで構成し、目的を明確にして、7 項目くらいの重要なものに特化して纏めたらどうか。簡単なコメントでいいと思う。
- ・(6) 何を蓄積すればいいのか (10) e ポートフォリオを導入することで、教員と学生の負担が増えるのか (13) 授業方法を変えなければならないのか (14) 全学的な取り組みとして始めなければいけないのか (16) 学生がなかなか入力しない (17) 振り返りはどのようにすればいいか (27) e ポートフォリオの普及がなかなか進まない 等を精査して 7 項目くらいに集約したらどうか。

4. とりまとめに向けた意見

- ・資料は委員会の課題、めぐる状況を 背景・現状・提言 分けて、基本的な考えを入れた上で、活用事例は抜き、Q & A で纏めることではどうか。

V. 今後のスケジュール

- ・年度末を目途に、報告は中間纏めではなく、「検討状況」(検討の流れ)としてまとめることとした。

以上